

中小企業庁の山下隆一長官と、ヒューレックス㈱（仙台市）の松橋隆広代表取締役社長が対談。成長意欲ある中小企業を力強く後押しする「100億宣言企業」に対する今後の可能性、レビキヤリなどを通じた人材への支援など、地域経済の活性化につながる、具体的な施策や今後の展望について話を聞いた。

松橋 「100億宣言企業」は、成長意欲ある中小企業の後押しという点で高い注目を集めています。

山下 大事なことは、売上100億円を目指すことで、改めて自社の経営に真剣に向き合ってほしい、ということです。

日本では長らくデフレ経済が続く、中小企業の経営はコストカット型など縮小経営が主流になっていますが、これまでの延長線上で、どれだけ未来図を描いてみても、オーガニックに100億には届きません。自社のビジネスモデルや組織をどのように変革していくべきか、その過程で、拠点の新設、大型設備投資、海外進出、M&Aなど、今までにない大勝負を描いて、非連続の決断に真っ向から向き

合う必要性に迫られることが多くあると思います。

それを本気で「実行する」と経営者が決断したとき、金融機関がしつかりと融資を行うのが本来の姿です。しかし、地方の金融機関もまた、成長経済に移行する過渡期にあります。

今回、起爆剤として成長加速化補助金を措置し、政策金融を通じた支援を強化しました。これはいつまでも続くものではありません。重要なのはこのプロセスを通じて何を残すか、です。中小企業の大胆な挑戦に対し、「リスクが高すぎる」と消極姿勢になるのではなく、融資を行い、本気で伴走支援する。そのコミットメントを通じて、金融機関自身にも「成長する中小企業と共に豊かになる」という

成長経済の手応えを体感してほしいと強く願っています。

経営者の一人ひとりがヒーローに

松橋 100億宣言企業の創出に向けた今後の展開について、お考えをお聞かせください。

山下 高い経営力を持つ売上100億企業が次々と生まれてくれば、賃金水準の改善、輸出による外需獲得、域内の仕入によるサプライチェーンへの波及など、大きな効果が期待できます。そのためには、各地に成長企業が次々と生まれてくる、そういった構造を作る必要があると考えています。



ヒューレックス㈱
代表取締役社長

松橋 隆広 氏

まつはし・たかひろ 1963年生まれ。青森県出身。86年山一證券㈱入社。2003年ヒューレックス㈱設立、13年マリッジパートナーズ㈱設立、16年事業承継推進機構㈱を設立、それぞれ代表取締役社長に就任。事業承継の総合的な支援を行っている。

100億宣言は開始1年目となる現在、3200件を超え、増え続けております。5月に開催した100億を目指す経営者が集う経営者ネットワークには1000人を超える参加がありました。圧倒されるほどのすごい熱気で、この国は必ず変わる、という確信を持ちました。

100億の世界は、身近な企業、経営者がクローズアップされてヒーローになる世界です。企業や経営者が「カッコいい」と注目されれば、社員のやる気も絶対に変わってきます。

同時に、その企業や経営者に近い別の企業の経営者にも熱が刺激となって火をつ

け、言葉は悪いかもしれませんが、「あいつにできるならオレも」と、価値観やマインドセットを挑戦や成長モードへ変えていく。そうして次から次へとヒーローが生まれる「成長のソフトインフラ」が国全体に広がっていくことが望ましいと考えます。ですから、100億宣言をした経営者の皆さまには、その高揚感を他の経営者に広げていただきたい。成長型の経営を常識とすることで、皆さまとともに、本気でこの国を変えていきたいと思っています。

もう1つ重要なのは、100億という高い視座を目指して挑戦を続ける経営者同士がつながる良質なネットワークを提供することです。

松橋 それはすばらしいことです。私も一時期、盛和塾

The
地方創生



中小企業庁 長官

山下 隆一 氏

やました・りゅういち 鹿児島県出身。1989年東京大学法学部卒、通商産業省（現・経済産業省）入省。資源エネルギー庁次長兼首席エネルギー・環境・イノベーション政策統括調整官等を経て、2024年長官に就任（現職）。

業支援の一
ら、中小企
業です
との共同事
経済産業省
は金融庁と
レビキャリ
して現在、
材の施策と
山下 人
か。

は、はじめとする民間企業に、こ
なのです。ですから、御社を
フラを作っていくことが重要
域の人材流動化の強力なイン
る民間ビジネスの主体が、地
ではなく、現場に精通してい
その仕組みを役所が作るの
ビジネスにおいて極めて重要
になると考えています。

ありがとうございました。
再生・承継を「人で解決する」
ソフトインフラとして、徹底
次回（後編）では、レビキ
ヤリを含む人材についての話
の続きと、後継者支援につい
ての取り組みについてお聞か
せたいと思います。

山 下 経営者同士が困りご
とを相談したり、悩みを共有
したり、先輩経営者の過去の
体験を聞いたりソリューション
を勉強したり。そうして、
いろいろな事柄がさまざまな
形に組み合わせられて、新しい
ビジネスも生まれる。こうし

たことが本当に起こるネット
ワークを持つ国はないので、
これが完成すれば、日本こそ
が、成長型の経済の中でイン
フラが揃った国になります。
僕は、この変革の時代、ヒー
ローは一人ひとりの経営者だ
と思っています。100億に

も発展できるんです。
レビキャリを核とした大企
業人材の地方環流を、さらに
加速させるための施策の方向
性について、どのようにお考
えてしょう
か。

と人材の双方を上手に媒介
（マッチング）する能力が、
ビジネスにおいて極めて重要
になると考えています。
その仕組みを役所が作るの
ではなく、現場に精通してい
る民間ビジネスの主体が、地
域の人材流動化の強力なイン
フラを作っていくことが重要
なのです。ですから、御社を
はじめとする民間企業に、こ

この取組みは地方にとつて大
きなチャンスです。我々も金
融機関の取引先企業の成長・
再生・承継を「人で解決する」
ソフトインフラとして、徹底
してサポートしてまいります。
次回（後編）では、レビキ
ヤリを含む人材についての話
の続きと、後継者支援につい
ての取り組みについてお聞か
せたいと思います。

経営者たちが熱狂するソフトインフラへ

の仙台代表をやっていたこと
があり、そこから連携が生ま
れたり、いい意味での競争が
起こったり、すごく良いソフ
トインフラでした。それがな
くなり、みんなそうだったネ
ットワークが欲しいと思って

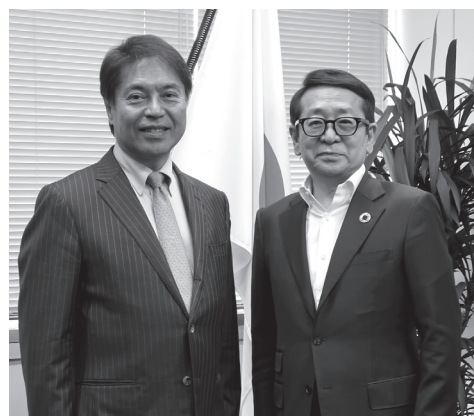
いる矢先でしたので、開始の
タイミングも良かったと思っ
ています。特に、金融庁の「地
域金融強化プラン」と「1
00億宣言企業」がつながる
と、さらに強固なネットワー
クになりますね。

松橋 そういう国になった
ら本当にいいですね。金融庁
の施策である「レビキャリ」
も、ある意味、循環型で、大
企業から中小へ、首都圏から
地方へといった流れを作って
くれました。M&Aだけでな
く、人材の採用を通して会社
も発展できるんです。

環境として十分に活用してい
たいと考えています。
ただ、本質的にはリアルな
ビジネスの世界で、企業やビ
ジネスパーソン自身が本気で
動かなければ、地方活性化に
はつながらない。AX等の構
造的な変化により、大企業か
ら中小へ、首都圏から地方へ
動かざるを得ない大きな波が
来るでしょう。その際、企業
と人材の双方を上手に媒介
（マッチング）する能力が、
ビジネスにおいて極めて重要
になると考えています。

腕になる人材という、良い事
例がたくさん出てきました。
地方企業が採用を強化するこ
とは、単なる欠員補充ではな
く、経営変革そのものです。
社内の人を育てる余裕がない
中小企業であっても、外部か
ら経営人材・幹部人材を迎え
入れることで、次のステージ
へ引き上げて成長できる。

地方創生から新しい日本の未来をつくる 中小企業庁長官山下隆一氏× ヒューレックス(株)代表取締役社長松橋隆広氏 【前編】



のレビキャリをはじめ
とする人材マッチング
をもっともつと牽引し
て、フロントランナー
としてやってほしいと
強く期待しています。

松橋 大変心強いお
言葉をありがとうございます。
言葉がありがとうござ
います。レビキャリを
活用して、事業承継の
後継者候補になる人
材、海外工場を立ち上
げた人材、後継者の右